

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：長沼町

事業名称 1：「田園と自然の共生拠点」づくりと長沼タンチョウ・ガイド（仮称）事業		
あらすじ		
舞鶴遊水地を訪れる個人・団体の観光客に対して、地域住民で構成されるグループが有償ガイドを実施する。また、観光をはじめとしたタンチョウも住めるまちづくりの拠点として、長沼舞鶴小学校（令和2年3月閉校）跡地を活用した「田園と自然の共生拠点」を整備する。		
ストーリー		
舞鶴遊水地を訪れる個人・団体の観光客に対して、地域住民で構成されるグループが有償ガイドを実施する。また、観光をはじめとしたタンチョウも住めるまちづくりの拠点として、長沼舞鶴小学校（令和2年3月閉校）跡地を活用した「田園と自然の共生拠点」を整備する。これによってタンチョウや渡り鳥をはじめとした長沼町の自然を観光の対象として扱うためのスキームがつけられ、観光オーバーユースを回避することにもつながる。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	舞鶴遊水地及びそこに生息するタンチョウなどの野生生物が観光等で利用される。その際タンチョウの生息や、地域の生活・産業と軋轢を回避する。	旧長沼舞鶴小学校の整備費用、事業活動の担い手、住民ガイドの担い手、事務局の担い手
②課題	町立小中学校の統廃合、観光拠点の整備、タンチョウの生息への悪影響回避、地域の生活・産業との軋轢回避、観光ガイドの有償化	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	空き校舎の利活用 舞鶴遊水地の観光利用の促進・コントロール	
④地域資源	タンチョウ、野鳥、舞鶴遊水地、旧長沼舞鶴小学校（校舎・体育館・校庭・教職員住宅）、長沼町の自然・文化・歴史	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	旧長沼舞鶴小学校を拠点とした自然観光、旧長沼舞鶴小学校における農産物の直売・レストランなど、長沼町の自然・歴史・文化に関するマニアックな情報、一人で観光するよりも楽しく充実した観光体験	
⑥担い手（Who）	旧長沼舞鶴小学校で事業活動をする事業者、地域住民によるガイドグループ	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	拠点が整備されることで、地域外の人がそこを訪れ、交流が生まれる。観光客が地域住民ガイドを利用することで、観光により地域にお金が還元される。拠点での情報発信等を通じて、地域内にも人と金の循環が生まれる。	旧長沼舞鶴小学校で事業活動をする事業者、地域住民によるガイドグループ
⑧事業で生じる成果	拠点が整備されることで、地域外の人がそこを訪れ、交流が生まれる。拠点での情報発信等を通じて、地域内にも人と金の循環が生まれる。観光客が地域住民ガイドを利用することで、観光により地域にお金が還元される。タンチョウの生息や、地域の生活・産業と軋轢が回避される。	

事業名称 2 : タンチョウ関連商品の開発・販売事業

あらすじ

長沼町のタンチョウをモチーフとした商品を町内の事業者が開発し、販売する。

ストーリー

長沼町のタンチョウをモチーフとした商品を町内の事業者が開発し、販売する。タンチョウ観光を目的とした来訪者をメインとして、バードウォッチャー・観光客・サイクルーリスト等がそれらを購入することで町の経済に貢献するとともに、さらにタンチョウとの共生に関する情報の発信者となっていく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	長沼町の来訪者が、町内での食事、記念品・土産品の購入等でタンチョウをシンボルとした高付加価値の消費活動をする。	事業者個別の取り組みではなく、地域全体としてブランディング、盛り上げを創出する必要性
②課題	町内飲食店メニュー、記念品・土産品に自然との共生をPRするブランディング、ブランディングされた商品のPR	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	長沼町のタンチョウをモチーフにした商品を開発・販売することで、商品に長沼町ならではの魅力・価値を付加し、消費の特別感を出す。	
④地域資源	タンチョウ、町内の事業者 (商店、飲食店など)	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	長沼町のタンチョウをモチーフとした商品	
⑥担い手 (Who)	町内の事業者 (商店、飲食店など)	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	タンチョウ関連商品を消費することで、地域にお金が還元される。	ブランディングの能力があるコンサルタント
⑧事業で生じる成果	タンチョウ関連商品を消費することで、地域にお金が還元される。	

事業名称3：タンチョウと共生して生産された農産物の販売事業		
あらすじ		
生物多様性の保全等に配慮した農業を推進し、生産された農産物をタンチョウとの共生を付加価値として販売する。		
ストーリー		
生物多様性の保全等に配慮した農業を推進し、生産された農産物をタンチョウとの共生を付加価値として販売する。これによって長沼町面積の8割を占める農地において生物多様性が保全され、アンブレラ種であるタンチョウの安定した生息環境が再生・維持される。また、これに取り組む農家の農産物の価値が高まり、高単価で消費されることによって農家の所得に貢献する。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	町面積の8割を占める農地において、生物多様性が保全されている。生物多様性を保全する農業が評価されて、農産物が高付加価値で消費されている。	生産された農産物の販売先、農家の意欲向上
②課題	圃場基盤整備や農薬・化学肥料施用によるハビタットとしての劣化、渡り鳥による農作物の食害	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	長沼町内で生物多様性の保全等に配慮した農業を広げる。農家の所得に寄与する。	
④地域資源	タンチョウ、農業	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	タンチョウとの共生が付加価値となった農産物	
⑥担い手（Who）	農家、農協、農産物取扱い事業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	高付加価値の農産物が都市部で販売され、都市と長沼町で生産物（モノ）と購入代金（カネ）の循環が生まれる。	農家、農協、農産物取扱い事業者
⑧事業で生じる成果	長沼町内で生物多様性の保全等に配慮した農業が広がる。農家の所得に寄与する。	